

■アーティストトーク

カメラとか、あれは全部用意してくれるんですか、ああい
ういろんな機材とか、ああいうコンクリートとかっていう
のわ。

肥後 コンクリートはまあ買いに行くのは手伝っていた
だきましたけど。

おか あんなは買いに行かないといけない？

肥後 そうですね。

おか ほんで機材とかは大学側が全部やってくれるんでしょ？

肥後 機材は基本的に自分で買いに行って。

おか ちなみにあのコンクリートって高いんですか？あれ
でなんぼくらいするんですか。あのひとかたまり三百キロで。

肥後 三百キロですか。一枚七〜八百円ぐらい。

おか そんな安いんですかコンクリートって。ありがと
うございました。さあ最後になりました、森井さんです。
よろしくお願いします。作品はこちらの？

森井沙季（以下：森井）

こちらの三点になります。

おか どういった作品でしょうか？

森井 私のこの三点の作品は、人々の脳内風景、心象風
景というものをテーマとして描いていて、私が惹かれる
テーマとして光と闇とか、表と裏、現実と虚構、こうやっ
て他者に向けてる自分と、一人にいる時の自分とかそう
いう相反する要素が互いに共存している場面というのが
私の中で魅力的だと感じていて頭の中でも相反する要素
が常に互いを飲み込みあって脳内でぐるぐるとしている
と思っていて、作品形態はぶらして描いてるんですけど、
そうやってこういう単語が互いにくるぐると混み合っ
てるという動画的な感じだなと思ってそれでぶらすって
いう手法を使って描いています。

おか これは実際にある場所ですか？

森井 これはアメリカのディズニーランドですね。

おか アメリカのディズニーランド。これはメリーゴーランド？

森井 これはなんか、すごいぶらしているので実物は全
然違うんですけど、下のやつが乗れるようになっていて、
くるくる回るやつなんですけど。乗っていないのであれ
なんですけど。

おか 綺麗ですね。これは分かりやすいですね。シャ
ンデリアですね。

森井 そうですね。今回こちらが卒展の作品で、こっ
ちの二点が今回の展示に向けて少しコンセプトを変えて描
いたものです。今回の作品は視覚が及ぼす世界の歪曲っ

ていう…ちょっと難しいんですけど、テーマにしよう
と
思っていて。この二つ実家にあるものなんです。シャ
ンデリアと犬のぬいぐるみ。このシャンデリアだと、私
の家が三人家族なんですけども父母私。父は事情で家に
今居てなくて、私も大学は京都なので下宿していて、母
親が一人だけのお家なんです。このシャンデリアがあっ
たときは、まだ家族が三人一緒に居てたときなんですけ
ども、家族が居てる時よりも、母親が一人だけの現実。
不在のときの方がこのシャンデリアはすごい輝いて見え
ていて多分それはそういう今家族が揃わないっていうこ
との現実的な裏付けの中、シャンデリアの光が嫌味に見
えて、禍々しいみたいなの。

おか シャンデリアを通した家族というものをね、心の
中にそういうものを閉じ込められているということですよ
ね、この作品の中にね。これは？

森井 これは犬のぬいぐるみですね。

おか ぬいぐるみ？これは小さいときからずっと持っ
てるやつですか？

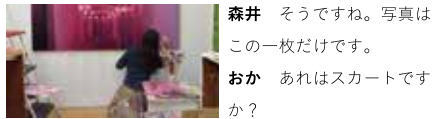
森井 そうですね。私の子供部屋に母親が趣味で置いて
たもので、どちらも共通して言えるのが命を持たない物
質。こうやって愛らしいじゃないですか、犬の結構リアル
なぬいぐるみなんですけど。シャンデリアもこういう
犬もそういうなんか命を持たないものが、こうやって愛
らしいシャンデリアの美しいっていう華やしさ、でその
華やしさに逃避とか現実の喪失への埋め合わせになった
時の視覚、目で捉えるものの歪曲みたいな。この絵だけ
を見ているとなんかシャンデリアがあって綺麗だなーみ
たいな、この家は金持ちなんだなーってなるんですけど
も全然そうじゃなくて、なんかそういう物質が与える光
のロマンチシズムのある意味空虚さ。その空虚さがある
からこそその美しさ。最初に言ったようにこういった相反
する二つの要素を持つものに惹かれるんです。

おか 一つの言葉、一つの空虚さに引っ張られていっ
て何かに気がつくみたいなのところっていうのは、すごく面
白いですね。そういった意味でいうとそこに家族が隠さ
れていたたり、幼い頃小さい頃からこういったものがある
という。ある意味セルフポートレイト的な作品になるの
かもしれないですね。

森井 かもしれないですね。でも、こうやって私が抱え
ている家族とか、今までの夢とか、将来のこととか、結
構そういう漠然とした不安感を割と表現していて、そ

れて皆さんにも言えることじゃないかと思って、私の
物語でありながら現代の人々に共通する脳内にある悩
みとかそういう要素なのではないかと思っています。

おか それでは画像の方をお願いいたします。これは
制作してる途中？



森井 そうですね。写真は
この一枚だけです。

おか あれはスカートです
か？

森井 作業着でスカートを穿いてます。

おか スカートの作業着って珍しくないですか？

森井 つなぎとか多いですね。ジャージとかも。

おか スカートって…なんで？って聞くのもアレですけ
ど、動きやすいから？

森井 そうですね。あとは、つなぎだと着替えがもた
ま
たしちゃうじゃないですか？スカートだとどの状態でも
カポってかぶったら五秒くらいで着替えられるんで。

おか 右に花が咲いてるみたいに見えるのは筆ですか？

森井 あれはマグカップにつっこんでる筆たちですね。

おか これはご自分の筆ですか？全部？

森井 そうですね。

おか これだけ使い分けるんですか？

森井 そうですね。結構色が濁るのがちょっと怖いので
割と筆は色ごとに分けたいなあと思って。結構いっぱい
あるんですけど、めっちゃめっちゃ固まってる筆もあるので
全部使ってる訳ではないんですけど。

おか これ今写っている部分っていうのはご本人が描い
ている場所ですけど、周りも同じように制作している感
じなんですか？

森井 そうですね。私が学部の時はお画コースだったん
ですけど、全然みんながみんな油絵っていうわけではな
くて、アニメーションつくってる人も居ましたし。私
は油画だからイーゼルに立てて描いてるって感じでした。

おか 大学はどちらでしたっけ？

森井 京都造形芸術大学です。

おか 京都造形芸術大学は一言で言うとなんか大学ですか？

森井 一言で言うと、社会を常に意識させる大学だっ
て
思います。

おか 卒展なんかでも学外から来てね、お祭りというか、
そういった感じの大学ですもんね。

森井 結構華やかですね。

おか ありがとうございます。そしてもう一人いらっ
しゃるんですけど、欠席されてる方がいらっしゃるんで
すよね。それは松長さんから説明をしていただきたいと
思います。

松長 早石萌莉さんという方の作品で room3 の部屋に
展示しています。木を彫って巨大なエビの頭部をつくっ
ている作品です。深海をイメージするため、部屋を真っ
暗にして青いライトで照らしています。

おか 京都精華大学の彫刻を卒業されたんですね。何
かご本人のコメントみたいなのはありますか？

松長 なぜエビを作ったんですか？と聞いたんですが、
節足動物とか骨格みたいなカクカクって曲がる部分が好
きだとお仰っていました。この前は金属、鉄でタツノオ
トシゴを制作していたり。今回なんで木で卒展の作品を
つくることになったのかということ、彫り続けてできるま
での時間というのが、自分の制作スタイルに合っている
から木で彫っていいこう考えたということをお仰ってい
ました。金属は割とスピード的には早くできちゃうので、
もっとゆっくり刻みながら、時間を掛けて作り上げたかっ
たというのが卒展でこの素材を選んだ理由だそうです。

おか 卒展で見たときのイメージとここで見たときの印
象は全然違いますね。

松長 そうですね。卒展のときは、他の学生と一緒にア
トリエの空間で展示したんですけど、本人はもっと暗く
したかったらしいです。他の作品もあるのでそういうこ
とができなかったらしいんですけど、ここはひとつの部
屋で彼女の作品だけ展示することができるので、基本
的に照明以外は遮光をして真っ暗にして、照明が明る
いので真っ暗にはならないんですけども、そういう作品
の展示方法にしています。作品自体は実は脚の部分が動
くん
です。可動するのがこだわってつくったところでもあ
るらしくて。もちろん触って動かせるということではな
くて、この位置で足を止めてあるけど、位置を変えよう
と思えば変えられるという作品になっている。可動部分
は金属が埋まっていて、そこが本当に関節のように動く
よ
うになっている。

おか 影がなんとも言えませぬね。

松長 影に今回こだわって壁面も当初は黒いカーテンの
ままっていうことで展示を始めたんですけど、やはり影
をもうちょっと出したいと変わってきたので、白い壁を
新たに加えてつくりました。